

<小学校 学級経営>

自ら考え、進んで活動しようとする意欲を育てる学級経営

—— 一人一人のよさを生かす係活動の工夫を通して ——

与那原町立与那原小学校教諭 照 屋 考 代

目 次

I	テーマ設定の理由	31
II	研究仮説	31
III	研究の全体構想図	32
IV	研究内容	33
1	学級経営の内容	33
2	学級活動における自己教育力のとらえ方	33
(1)	学級活動を支える学級経営	34
(2)	学級活動での自己教育力の育成	34
3	係活動における効果的な実施方法	35
(1)	学級経営と係活動	35
(2)	係活動、当番活動の意義	35
(3)	係活動と当番活動のちがい	35
(4)	係活動のねらい	35
(5)	係活動を活発にするために	36
(6)	評価の仕方	36
4	係活動における具体的な実践資料	37
(1)	指導の計画	37
(2)	係のノート作成	38
(3)	学級会を行うについて	38
(4)	係活動についてのアンケート分析	39
V	成果と課題	
1	成果	40
2	課題	40

<主な参考文献>

＜小学校 学級経営＞

自ら考え、進んで活動しようとする意欲を育てる学級経営

—— 一人一人のよさを生かす係活動の工夫を通して ——

与那原町立与那原小学校教諭 照屋考代

I テーマ設定の理由

特別活動の目標は、小学校においては「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」と示されている。この教育活動が実際に行われている場が、学級である。学級は、児童にとって、学校生活の拠点であり、学習の場でもある。まず、学級が生活の場として成り立たなければ、学習の場としての学級も成り立たない。

人間は社会的動物であるといわれるように、自己と他との関わりの中や、集団の中で高められていく。児童は、学級で、日々多様な活動を通して、教師、友達、集団の中でともに助け合い、学び合っている。そして、お互いの良さを認めあいながら自分の良さを見つけだし、集団の中での個人のあり方を学んでいる。その中で教師の役割として重要なことは、一人一人の児童を正しく理解し、個を大切にしながら個々の児童同士がお互いに認めあう受容的雰囲気をつくり、支持的風土をつくっていくことである。そのような学級においては、学級全体がいきいきと活動し、活気に満ちた生活ができる。そして、学習に対する意欲も出て、学び方の習得も容易になるだろう。そうなれば、児童が自ら課題を見つけだしたり、自ら判断して行動するなど、自己の向上のために努力する態度＝自己教育力が育つのではないかと考える。

この自己教育力を育てる一つの手だてとして、学級での係活動の活性化は大切な要素であり、私自身、それに視点をあてて取り組みを進めてきた。係活動を活発にすることで児童の創意工夫を促し、自己開発をさせながら集団で高めあうことを目指した。児童が、活動していく中で一人一人の意見やアイデアを自由に出し合い、それぞれの持つ特性を生かすことで充実した学級づくりができることを願った。しかし、係を決め、計画を立てて意欲的に活動を始めるのだが、次第に工夫する場面が見られなくなり、不活発、やがて停滞するようになっていった。活動の様子やアンケート調査などからその原因を考えてみると児童の側面からは、

- (1) やりたい係と実際の係が違う。
- (2) 活動時間が足りない。
- (3) いきづまった場合にどうすればいいのか分からない。見通しが立たない。
- (4) 「自分たちの手で、学級をよりよいものにしていこう」という意識が弱い。

等が不活発の要因として浮かび上がってきた。次に、教師の側面から見ると、

- (1) 児童一人一人についての理解が不十分だった。
- (2) 活動への適切な手だてが十分でなかった。
- (3) 適切な評価等をさせず、次への具体的な目標を持たしてあげられなかった。

という反省が残った。そのため、児童の持つ特性を十分に生かすことができなかったものと思われる。

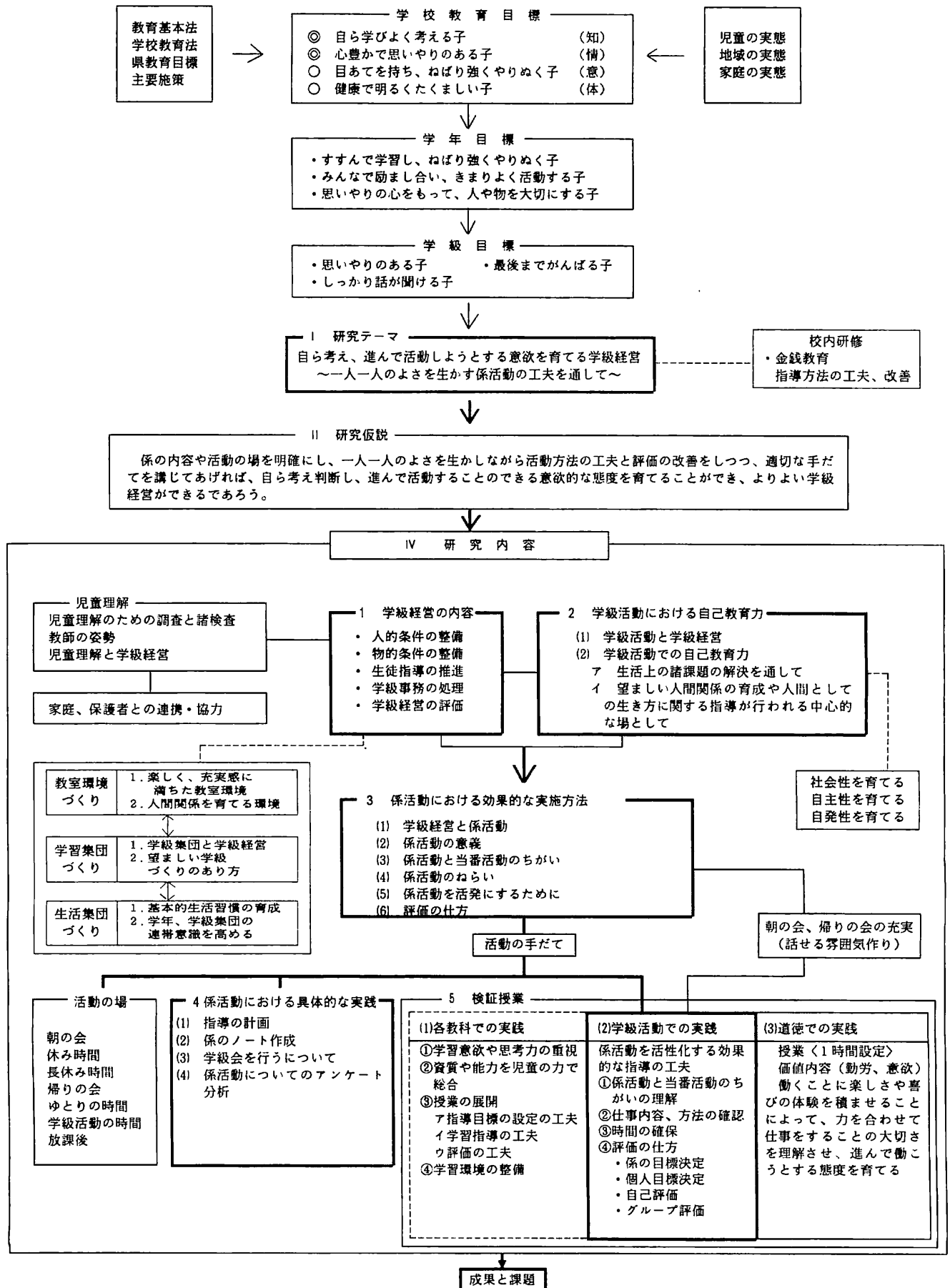
そこで、これまでの指導のあり方を反省し、係活動の内容や活動の工夫、評価のさせ方の工夫をすることによって、一人一人の児童に自信と意欲を与え、自ら考え判断し、進んで活動のできる児童を育てることができるのではないかと、本テーマを設定した。

II 研究仮説

係の内容や活動の場を明確にし、一人一人のよさを生かしながら活動方法の工夫と評価の改善をしつつ、適切な手だてを講じてあげれば、自ら考え判断し、進んで活動することのできる意欲的な態度を育てることができ、よりよい学級経営ができるであろう。

Ⅲ 研究の全体構想図

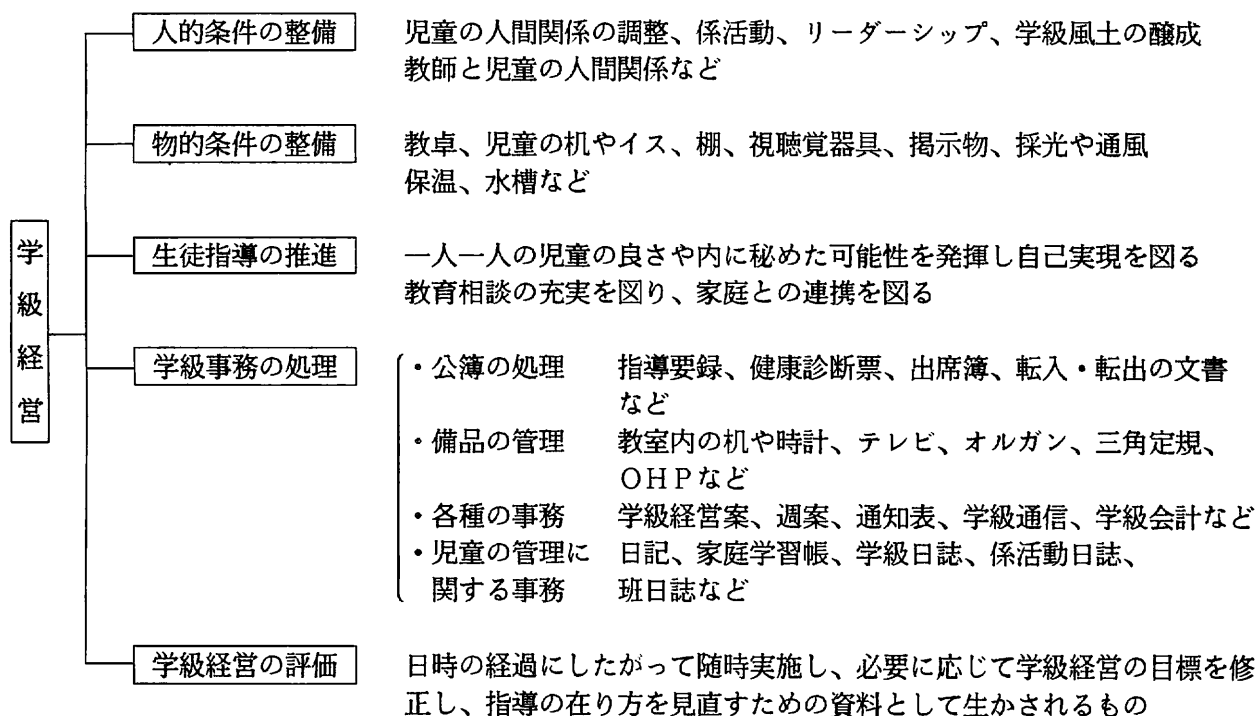
研究を進めるにあたっては、研究内容を整理し、全体を把握するために構想図に表してみた。



IV 研究内容

1 学級経営の内容

一般に学級経営とは、「学校経営の基本方針の基に、学級を単位として展開される様々な教育指導の成果を上げるために必要な諸条件の整備を行い、運営すること」文部省『小学校 特別活動 指導資料』といわれている。成田國英『学級経営の基礎・基本』の中で、学級経営の内容は、次の5つに分類している。



2 学級活動における自己教育力のとらえ方

(1) 学級活動を支える学級経営

特別活動（学級活動、児童会活動、クラブ、学校行事）は、教科の指導とは異なり、なす事によって学ぶという実践的な教育活動である。

とりわけ、学級活動との関連では、児童個々の活動意欲や活動テーマへの関心の強さ、及び活動の全過程への学級全体としての取り組みの真剣さ、積極性などに学級経営の成果が表れる場合が多い。この両者の関係を次のようにまとめる。

- ① 学級経営は、学級を単位として行われる学級活動を組織的に支え、児童の集団活動を意欲的に推進させる基盤となる。
- ② 学級経営としての学級担任の教師が行う生徒指導の機能は、学級活動の指導の場面に生かされる。
- ③ 学級担任が描く学級の集団像や児童像は、学級活動の全内容で行われる人間としての生き方に密接に関連する。
- ④ 学級活動を充実させるために必要な朝の会や帰りの会の運営、リーダーの養成、人間関係の調整改善などは、日常の学級経営の創意工夫と結びつく。
- ⑤ 学級活動の評価は、学級経営の成果を基盤にして実施される。

学級担任が作成する学級毎の年間指導計画の作成にあたっては、学級経営との関連を十分図って各学期、各月の活動内容を明らかにしていく必要がある。

(2) 学級活動での自己教育力の育成

① 生活上の諸問題の解決を通して

学級活動は小学校においては二つの活動内容から構成されている。第一の活動内容は、児童会活

動やクラブ活動と共に、児童による自発的、自治的な実践活動が展開されることである。そのためには、児童の自主性を尊重することによって、少々の失敗が予想されても直ちに干渉することなく、自発的、自治的な活動を重んじ、学年の発達段階に応じて、成就感や自信の獲得につながるように適切に助言することが大切である。第二の内容としては、主として生徒指導に関わる内容を授業するものである。指導にあたっては、教師が中心になって指導してきた傾向を改め、できるだけ児童による主体的な活動が展開されるように留意する。

児童による集団活動を活性化するために学級担任には、自分たちの学級を自分たちの力で充実・向上させることを志向して問題意識を持ち、身のまわりの諸問題に主体的に取り組むよう助言することが求められる。生活上の諸問題としては、学習上の問題、発達上の問題、児童に共通する心身の悩みや不安、基本的生活習慣の形成など、様々なものが考えられる。

学級活動では、これらの諸問題の解決を、教師の指導・援助や、児童相互の協力などによって、個々の児童が自ら解決していくようにするものである。そして、その結果として、自己指導能力を育て、自らの問題を、自らの力で解決し、自己実現への意欲を育てようとするものである。

しかし、一人一人の児童は、それぞれの個性も異なり、生活環境も異なる。したがって、当面する問題も同じではない。また、同じにしても生活環境等の違いによって解決の方法は自ずから違ってくることが多い。これらのことを考えるとき、児童が当面する問題を自主的に判断し、解決していくことができるように指導・援助していくことが学級活動では大切になる。

学級活動の話し合い活動においては、教師が中心になって指導する題材においても、児童が司会や記録などの役割を持ちながら話し合いを進めたり、題材によっては、アンケートによる調査結果を児童が整理したり、必要な資料を児童が収集して整理することも考えられる。なお、司会や記録などの役割は、輪番制を取ることで全ての児童に等しく経験させることが望まれる。

② 望ましい人間関係や人間としての生き方に関する指導が行われる中心的な場として

人間としての生き方は、学校生活全般の中で児童が身につけていくものであることは言うまでもないが、学級を単位とした学級活動としての指導及び活動が、その生き方をよりいっそう確かなものにしていく。

具体的な行動を題材にして、児童相互に話し合い、理解し合い、励まし合い、協力して実践していくという活動が、望ましい人間関係の学習や人間としての生き方を身につけていく上で重要な意味を持っている。学級において、児童の主体的な活動が展開されるようになると、それによって身につけた力は、児童会活動やクラブ活動、学校行事など、特別活動の他の活動においても確実に発揮されるであろう。

3 係活動における効果的な実施方法

(1) 学級経営と係活動

集団が生き生きと活動し、機能していくためには、その集団の成員が役割を分担し、力を発揮していくことが不可欠である。学級においては、係活動がその主な場になる。文部省『小学校指導書 特別活動編』で「係の活動は、学級の児童が、学級内の仕事を分担処理するために、幾つかの係に分かれて自主的に行う活動であり、児童の力で学級生活を豊かにすることをねらいとしている。」と示されている。児童は、この活動を通して、自分たちの学級生活上の問題や仕事に目を向け、それぞれの個性や能力を生かしながら、学級生活を向上・発展させようと、自発的に仕事を分担して活動に参加していく。このような係活動を通して、児童は集団活動の喜びを体得していく。また、最近の児童に見られる人間関係の希薄化に伴う人間関係のあり方についても、経験させることができる。

(2) 係活動、当番活動の意義

学級における係活動、当番活動には、次のような教育的意義が考えられる。

- ① 内容のある望ましい集団活動を育てるのに役立てることができる。
- ② 勤労意欲を高め、正しい勤労観を育てるのに役立てることができる。
- ③ お互いの連帯意識を育てるのに役立てることができる。
- ④ 社会性を育てるのに役立てることができる。
- ⑤ 消極的な態度からの脱皮に役立てることができる。
- ⑥ 自己実現のための自主性を育てるのに役立てることができる。
- ⑦ 信頼関係を育てることができる。

(3) 係活動と当番活動のちがい

係活動の仕事を児童に見つけさせると、本当に様々なことを発見してくれる。しかし、それらの仕事の中には、教師の管理的なものや補助的な仕事がたくさん入っているので、係活動と当番活動の違いを明確にして、指導していく必要がある。

表 1 係活動と当番活動のちがい

係 活 動	当 番 活 動
・回りに及ぼす影響が少ない係もある ・やることがはっきりしていない ・創意工夫をしないと活動できない ・活動時間がまちまちである	・学級生活維持のための仕事が多い ・教師の計画で進めるのが多い ・児童の創意工夫が余り生かされない ・教師の指示が多く入り込む
・一定期間同じメンバーと活動する ・好きな友だちと同じ係になれる ・児童の自由な発想が生かされる ・児童の創意工夫が十分盛り込める ・自分も楽しく、学級生活の向上につながる	・ほぼ一週間単位で交代する ・全員で役割分担をする ・機械的にできる ・活動時間がほぼ決まっている
・新聞係 ・レク係 ・掲示係 ・飼育係 ・体育係 ・学習係 ・生活係 ・保健係	・給食当番 ・清掃当番 ・日直

(4) 係活動のねらい

『学級担任の一年間』の中で宮本一史は、係活動のねらいを学年別に定めている。

表 2 係活動の学年別ねらい

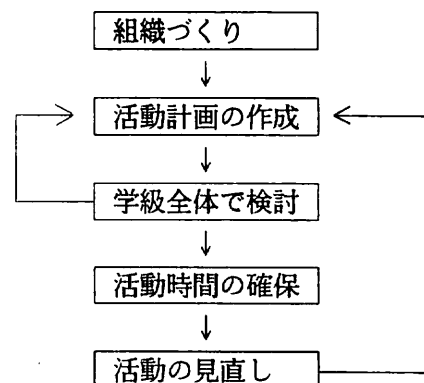
1 年	教師と共に学級に必要な仕事を見つけながら、係活動の素地をつくる。
2 年	学級内の仕事をするための係の必要性を理解し、教師と共に、簡単な活動計画を立てて協力し合って活動する。
3 年	教師の助言の元に、学級内で必要な仕事の内容を考えて係を創り、簡単な活動計画を立てて活動できる。
4 年	教師の助言を得ながら、必要な係を創り小集団で分担し、その種類や内容に応じて計画的に実践できる。
5 年	自分たちで係を組織し、計画に基づいて学級全体のことを考えて、創意工夫を生かした実践ができる。
6 年	学級生活をよりよくするために、長期の見通しを持った計画を立てて、組織的・能率的に創意工夫を生かした実践活動ができる。

(5) 係活動を活発にするために

① 係を設置するための条件

- ・自分たちの学級に必要な係であること
- ・係活動と当番活動のちがいをはっきりさせること
- ・分担した仕事内容が負担にならないこと
- ・継続的に活動できること
- ・児童のアイディアが生かされること
- ・好きな係であること
- ・班編成に配慮すること

② 係活動の運営



③ 活動の場と時間を設定する（活動の工夫）

- ・ 月1回は学級活動の時間を係活動の時間に当てる
先月の反省と今月の計画を立てる。更に、仕事を考えたり、意見を交換したりするなどそれぞれの係で認め合う場としてもつかう。
- ・ 1週間の中で「係の時間」を設定する。
各々の係によっては、活動時間が違うので、自分たちの係が活動できる時間帯を決めて活動する。
- ・ 「朝の会」「帰りの会」「自主活動（昼休み）」などに「係からのお知らせ」、「係へのお願い」の時間を設け、学級全員との連携を図り、認め合い、協力する。
- ・ 適宜教師の援助を行い、激励し、実践に結びつける。
- ・ 空きロッカーや棚を利用し、活動に必要な用具類の設置場所を確保する。

(6) 評価の仕方

係活動の評価は、教師側のねらいを先行させるのではなく、児童の自己評価や相互評価を大切にしていきたい。その中で自己を振り返らせ、自ら課題を見つけだすことによって、意欲的な活動ができるように支援したい。

評価は、学期末にのみ行うのではなく、学期内に数回実施させたい。

表3 係活動の評価（例）

あなたの係の仕事についての反せい				4年	組	氏名（		）
Aーはい Bーふつう Cーいいえ のどれかに○をつけてください。								
1	自分の係の仕事が面白い。	A	B	C				
2	進んで係の仕事をし、くふうして活動できた。	A	B	C				
3	友だちと仲よく活動できた。	A	B	C				
9	係の仕事で、くふうしていることがあったら書いてください。							

4 係活動における具体的な実践資料

(1) 指導計画

山梨県教育センター『研究報告書』平成四年度の資料を基にして、一カ月の目安で指導を行った。学級活動の時間、朝の会、帰りの会、休み時間、ゆとりの時間を使って、指導を行った。係の活動の時間帯は各々がいろいろあり、朝の会で調べものをする係もあれば、休み時間、放課後を使って活動する係もあった。活動の実際は、係のノートに記述されたことを見ることによって活動の様子を把握し、指導の手を加えていった。

表4 指導計画表

過程	学級全体の活動	班の活動内容	活動の場面	月/日
計画	・係活動の見直し	・係活動と当番活動の違いの確認 ・全体の見直し	学級活動の時間	6/5(月)
準備	・活動内容の発表 ・係への期待 ・激励、援助の言葉を出し合う	・どんな仕事をするか決定する ・どのような活動をして欲しいか話し合う	学級活動の時間	6/7(水)
		・活動内容を決定する	帰りの会	6/8(木)
		・何を、誰が、いつするのか活動分担や計画を作成する	学級の時間	6/9(金)
実施①	・各班への要望 (期待、激励、援助の姿勢を示す)	・仕事を遂行する ・良かったところやもっとやってもらいたいことなどを出し合う	朝の会 帰りの会 休み時間	
	・反省の発表 ・各班への要望 (期待、激励、援助の姿勢を示す)	・良くできたところを話し合う ・良かったことやもっとやってもらいたい事などを話し合う	ゆとりの時間	6/16(金)
実施②	・各班への要望 (期待、激励、援助の姿勢を示す)	・仕事を遂行する ・先週よりも努力したところを認める ・良かったことや、もっとやってもらいたい事を出し合う	朝の会 帰りの会 休み時間	
	・反省の発表 (期待、激励、援助の姿勢を示す)	・良くできたところを話し合う ・改善点などをだしていく ・良くなっていることや工夫していることなどを認め合う	ゆとりの時間	6/22(木)
実施③	・各班への要望 (期待、激励、援助の姿勢を示す)	・仕事を遂行する ・先週よりも努力したところを認める ・良かったことやもっとやってもらいたい事を出し合う	朝の会 帰りの会 休み時間	
	・反省の発表 (期待、激励、援助の姿勢を示す)	・良くできたところを話し合う ・改善点などをだしていく ・良くなっていることや、工夫していることなどを認め合う	学級活動の時間	6/30(金) (本時)
反省	・全体の反省をする	・自己、班の反省をする ・係活動全体の反省をする(アンケート)	学級活動の時間	7/12(水)

(2) 係のノート作成

活動の実際は、係のノートを個人に持たせ、記録させながら行った。右の①～④のカードを綴って一冊のノートにした。①の活動の目標は、係が決定した時点で目標を決めさせ、仕事内容と分担する担当を割り振り、活動時間の設定を行った。次に②の個人用反省カードは、活動をした後に毎回記入させるため多めに綴った。そして、③の活動計画カードには、月の初めに一ヶ月を一週間ごとに4ブロックに分けて、大まかな計画を立てさせた。最後の④の活動カードは、月末に③の活動計画カードと照らし合わせて活動したことで良かったこと、よくできなかったことについて振り返りができるようにした。

教師は、児童のノート記入が終わりしだいサインや援助の言葉を書き、活動の励みになるようにした。

① 活動の目標

毎日 学習 係		
活動の目標		
・ 毎日おぼえさせる		
・ 力をあわせてやる		
活動しないようとおんたん		
仕事しないよう	氏名	活動時間
・ しゅくだいを出している人をしらべる	24日 月水土 25日 月水土 26日 月水土	3時間目の やすみじかん
・ 音楽のじかんをみんなであそぶ	かんたんで うたわたりする(ふえむ)	音楽のじかん
・ れんらく帳をかく	27日 月水土 28日 月水土 29日 月水土	そうじの あひだあと
・ じゅぎょうのあひだに 学習クイズを出す	みんなであそぶ	じゅぎょうの あひだ
・ よく前編やうたわたりを やっています。		

② 個人用反省カード

こじん用反省カード 6月20日(金)

活動の目標 いろいろ調べる (生活係)

活動時間 朝の会

仕事しないよう かんたんで 調べる

反省カード

自分の反省 (自分)

① 目標を考えた活動できたか

② 仕事しないようはうまくいったか

③ 友達と協力できたか

④ 友達が楽しく活動していたか

⑤ 先生が楽しく活動していたか

⑥ 先生が楽しく活動していたか

今日の感想

自分たちのくふうがよくなり、やるべきことが多かった。

③ 活動計画カード

レク係 6月 活動計画カード

何曜日	やること	工夫すること
月曜日～月曜日	・ 月曜日からレクシー じをほむる	・ カラフルな紙を貼る
6月5日～6月9日(月)～(金)	・ レクのこんたてん かえる	・ みんながたのしむ ように作る
6月10日～6月14日(土)～(火)	・ みんなで、ほむる 大会をする	・ みんながたのしむ おもしろいように作る
6月15日～6月19日(水)～(日)	・ バツゲーム をあげ、99人か たか	・ みんながやめたい ようにする
6月20日～6月24日(月)～(土)	・ 発表発表	・ みんながやめたい ようにする

楽しくできそうです。

④ 活動カード

レク係 6月 活動カード

月/日()	活動したこと
6/16(金)	活動の時間をはかてプリントにまてた けいけんした。5つのうち3つもけいけん
6/20(金)	どおりにできた。
よくできたこと	レク系新聞1号がさんせいした。
よくできなかったこと	バツゲームもみんないじがらなく なってきた。
よくできなかったこと	バツゲームは、だれが99人か かた、けいけん発表がまだできて ない。
先生から	ふつう がんばろう

(3) 学級会を行うについて

「係の見直しをしよう」という議題の学級会を行い、係活動の活性化を図った。その際、事前に係長を集めての計画委員会をもたせ、そのなかでの話し合い→帰りの会において議題について前もっての提案→学級会での話し合いというような手順をとった。

計画委員会では、次のページの⑤計画委員会メモをもとに学級会での議長団の役割分担を行い、提案理由の確認と、話し合いの順序を話し合った。そして、⑥の話し合いの進め方に従って、学級会での話し合いを行った。

児童にとって話し合いの進め方の手順を示したことは、1年のスタートにあたるこの時期にこれから学級会を進めていく場合の指針となった。

⑤ 計画委員会メモ

計画いいん会（係長会）メモ

4年4組（ ）係長

第 1 回学級会の計画（話し合い活動）

議題 係活動の反せいをしよう

役わり ぎ長（りん子） ふくぎ長（みなみ）
 黒板記録（ゆう子） ノート記録（しんや）
 ていあん者（考代先生）

ていあんろう 各係の活動の様子をしてみよう
 これからの活動をみんなできょうかして
 進めてほしい

話し合いの
 じゅんじょ 1. はじめの言葉（ちあき）
 2. 役わりしようかい
 3. 歌（ ）
 4. ていあん者からの発表
 5. しつ問
 6. 話し合い
 話し合うこと ① 係活動計画カードをもとに
 活動カードに反せいをする。
 ② 各係ごとに発表する
 ③ 活動しやすいよう各係に
 アイデアを出してもらう。
 7. 決まったことの発表
 8. 先生の話
 9. おわりの言葉（たかや）

⑥ 話し合いの進め方

1. これから、第 / 回学級会を始めます。

2. 今日のぎ長は、私 山崎りん子 です。ふくぎ長は 山内みさみ です。
 ノートきろくは しんや です。黒板きろくは ゆう子 です。
 話し合いがしやすいように一生けんめいがんばりますので、皆さん
 のご協力をおねがいします。

3. 今日のぎ題は、「係のみなおしをしよう」でした。これにつ
 いては、皆さんも考えてきたと思います。では、ていあんした人は、説明
 をしてください。ていあん者は 考代先生 です。

4. 今のせつ問で、分からないことがあった人は、しつ問してください。

5. 今日は、次のことについて話し合いしたいと思います。
 (1) 6月の反せいをしよう と、
 (2) かく係にアイデアを出しあおう です。
 まずはじめに、 です。
 では、かく係で話し合ってください。

6. 意見はまとまりましたか。それでは、発表してください。
 ○○○係さんおねがいします。

7. かく係にアイデアを出しあおう 次に、について話
 し合います。では、意見を言ってください。

8. 決まったことをきろくの しんや より発表してもらいます。

9. 先生のお話です。 考代 先生おねがいします。

10. これで、第 / 回学級会を終わります。 たかや あいさつをおね
 がいします。

(4) 係活動についてのアンケート分析

係活動についてのアンケートを5月の下旬（第1回目）、7月の中旬（第2回目）に同じ項目について実施した。

その中から、活動しようとする意欲について関係する3項目を取り上げてみた。（1～3、5、7の問いについては省略）

問い4の「係の仕事をよくしていますか」について④ぜんぜんやらないが0回答になっていることから、学級の全員が、係の仕事に携わることができたということが分かる。次に、問い6の「仕事を頑張ろうという気になるとき」は、やはり、仕事が平等であることの意識が高まった。そして教師に認められることと励まされることは、学年はじめの1学期には、とても必要であることが分かる。さらに、問い8「活動をうまくできるようになるにはどうすればいいか」と思っていますか。

⑦ 係活動についてのアンケート調査(32人)

問い	質 問 事 項	前(%)	後(%)
4	あなたは自分の係の仕事をよくしていますか。 ① 進んでやっている ② よくやっている ③ あまりやらない ④ ぜんぜんやらない	26 55 16 3	13 74 13 0
6	係の仕事を頑張ろうという気になるときですか。 ① 仕事を同じように分けたとき ② 好きな仕事だったとき ③ 仕事をしないとクラスに迷惑がかかる ④ 助け合う友達がいたとき ⑤ 先生に誉められたり認められたとき ⑥ 先生に仕事を頑張るように言われたとき ⑦ 友達に言われたとき ⑧ 仕事のやり方や工夫の仕方が分かったとき ⑨ その他	5.6 38.8 9.7 16.7 5.6 1.4 1.4 12.5 8.3	12.9 25.8 11.3 17.7 11.3 4.8 3.2 1.4 11.6
8	係活動をうまくできるようにするにはどうすればいいかと思いませんか。 ① 係を変える ② 活動する時間を見つける ③ 友達と協力する ④ 仕事の内容をしっかりとつかむ ⑤ 先生に教えてもらう ⑥ 学級の友達に見てもらう ⑦ 係の感想を話し合い、良くできた点を発表する ⑧ 仕事を始める前によく話し合いをする ⑨ 係の棚をつくって活動しやすくする ⑩ その他	5.8 11.6 24.4 15.1 5.8 3.5 10.5 16.3 5.8 1.2	7.6 18.5 21.8 16.3 6.5 7.6 6.5 9.8 5.4 0

しかし、仕事をしやすいように各係の道具をおく棚の設置をすることなどは、1回目、2回目のアンケートで変化は見られなかった。これは今後の課題としたい。

V 成果と課題

1 成 果

- ・ 係のノートを個人で持たせ、一ヶ月を1週間単位の4ブロックに分けての計画と、仕事の分担をさせたことで、活動の目安ができた。その後、自主的に考えて活動することができた。
- ・ 活動の見直しを学級会で行い、発表させ、話し合うことで「やり方が分かった」「係活動をするといいい気持ちになった」という意欲づけをすることができた。
- ・ 一人一人のよさを生かしながら、自分に適した好きな係を選べるようにした。そのことが、活動への意欲や態度を育てることになった。
- ・ 放課後残って掲示物のはり方を工夫する、係の新聞を楽しんで発行するなど、児童の活動が活性化しているようすが見えた。
- ・ 帰りの会を利用して、手作りのクイズを配るなど、学級と個の関わりがもてるようになった。
- ・ 学級全体の雰囲気明るくなり、一人一人の児童が学級をより良くしていこうとする意欲や態度を育てることができた。

2 課 題

- ・ 今回は、係活動を活性化することで児童の意欲をかき立て、自主性のある学級経営の試みを図った。ほとんどの係が意欲的に活動できた。しかし、一部ではあるが、まだまだ活動への意欲的な参加が観られない児童もあった。それらの児童の実態把握や具体的な手だての方法、励まし、賞賛など教師の積極的な関わり方、個に応じた課題解決の仕方など今後の課題にしたい。

<主な参考文献>

下村哲夫 天笠茂 成田國英 編著	『学級経営の基礎・基本』	ぎょうせい	1994年
天笠 茂 編著	『学校改善と学級経営』	ぎょうせい	1994年
成田國英 編集 宮本一史 編集協力	『学級担任の一年間』	ぎょうせい	1994年
高階玲治 編	『自己教育力を育てる小学校の学級経営』	明治図書	1991年
飯田 稔 編	『自主的態度を育てる小学校の学級経営』	明治図書	1991年
伴 貞男・福田俊彦 編著	『なかよく楽しい学級活動<3・4年>』	東洋館出版社	1994年
中嶋公喜 編著	『子どもが生き生きとする日直・当番・かかり・委員会クラブ』	明治図書	1994年
成田國英 編集	『小学校特別活動指導細案学級活動』	明治図書	1992年
石狩教育研究所	『新しい学級経営のあり方』		1993年
教育技術研究所 編集	『小学校特別活動実践事典』	小学館	1978年